

【ねがいましては】

第49号

平成4年10月27日
共和珠算学習塾 新浜

本を読む

先日、知人から2巻のカセットテープを借りました。岸本裕史さん（学力の基礎を鍛え落ちこぼれをなくす研究会）の講義が収録されていました。その中で、学力を決定するものは何かということに触れていましたのでご紹介します。

学力をつける大事なものに『言語のイメージ化』を取り上げています。

子どもにお母さんが聞かせてくれる昔物語、それはお話を聞くだけで自分の心の中に独自の画像を描く世界。そしてその中に夢を膨らませて優しさに包まれながら眠りについてゆきます。100%心の安定した状態です。やがて絵本など自ら活字を追いかけるようになります。そこでも子どもたちは一握りの画像と文字から自分のイメージをさらに膨らませていきます。

本読みの始まりです。対称的なものがテレビということになります。テレビはストレートに画像を出すために、イメージ化する力が育ちません。そのようなテレビ漬けになってしまっている子は、学校生活でどのような弊害を受けているかということ、算数の文章題や作文などでそれはイメージする力が乏しいので、頭に中に画像がでにくく筋が通らない、まとまらないということになります。

今の子どもたちの算数の文章題ざらい作文ざらいは、どうやらそこいらへんに原因があるように思えます。

そしてその言語を一番覚えるのはどの時期か。一般的には2～5歳ころだと思われるお母さんが多いと思われますが、実は小学4～6年生が人の一生で一番多く言語を習得する時期だと言っています。

この時期にいかにも多くの言語を手に入れるかで、その先の学力の行き先が決定されかねないと言っています。

その言語の入り口は学校では限られたものしか手にいれられません。では、どこなのか。

家庭における家族間の会話、そして読書だと言っています。

その読書のデータ・・・小学4年生、通信簿オール5レベル

30～70冊（月）
4レベル 10～20冊（〃）
3レベル 3～5冊（〃）
2レベル 1～3冊（〃）
1レベル 0冊（〃）

ということです。言語能力の基礎をしっかりとさせることで、こんなにも差が出てしまいます。かといって、いきなり「本読め」と命令してもなかなかうまくいきません。まず読みやすいものからスタートさせるべきだと思います。始めにお父さんお母さんが本を読み、「これ、良かったよ」と言って与えたらと思います。そしてお互いに読み終えた後、『話し合う』という姿、なかなかほのぼのしていませんか。

近いうちにこのカセットを聞いてもらおうと考えております。

学習科に通われている生徒さんは、教室にある本を貸し出しておりますので、どんどん読んでください。

11月の予定

12日（木）	第232回検定試験申し込み締め切り
14日（土）	お休み・・・学校もお休み
28日（土）	珠算10～4級 検定試験・・・共和珠算塾 暗算 6～1級 検定試験・・・〃
29日（日）	珠算段位～3級 検定試験・・・江東区文化センター (今回の試験は会場が今までと違います。 集合時間・交通費などいつもとかわりますので検定前日の 説明をよく聞いてください。)